

義務教育課長メッセージ

ひとそえ

家を出るとき、「行ってきます。」を言う子供に「行ってらっしゃい。」を返した後、「(車に) 気を付けて。」の一言を添えるかどうかで、交通事故に遭う確率が変わるという話を聞いたことがあります。「気を付けて」のひとそえが「ある家庭」と「ない家庭」では、「ある家庭」のほうが、子供が事故に遭う確率が低いという話です。

昨日(11月23日)、「学校における集団感染の発生に伴う感染症対策の一層の徹底について」と題した義務教育課からの通知文(県立学校への通知の写し)を発出しました。国からのもの、県独自のもの、新型コロナウイルス感染症に係る通知は、これまでも幾度となく出してきました。この度の通知の特徴は、先週末、知事が本県は「感染警戒期」(「感染縮小期」、「感染警戒期」、「感染拡大期」の3段階の2つめ)に入ったことを伝えた20日付の通知から、わずか3日後に発出されたという点です。

感染拡大の波は、本県の学校現場にも押し寄せています。

現時点では中予地域が多数を占めていますが、各地域、いつだれが感染してもおかしくないと言える状況です。それを物語る数字が、県内小中高校教職員の感染者数です。それまでわずか2人だったのが、ここ一週間ほどで9人増え、11人となっています。まさに、状況が一変しています。

ここで、私たちが肝に銘じておきたいのは、知事が会見で常々語っているとおり、「敵はウイルスであり、人ではない、感染された人に非はない、感染は誰にでも起こりうるものである」ということです。

今、想像力が試されています。陽性となった人、家族に陽性になるかもしれない人がいる人、、、危機に直面している人の心中に思いをめぐらせ、温かい気持ちで、温かい言葉掛けをしながら、コロナに向き合っていきましょう。

県内小中学校においては、真摯に取り組んでいただいている学校での感染症対策を今後も続けていくことはもちろん、第三波においては、全国的に家庭

内感染が増加していることも踏まえ、学校外での感染症対策に、今一度、力を入れていただきたいと思います。

わずか数秒の「気を付けましょう」のひとそえが威力を発揮し、友達同士の家遊びでついついマスクを外してしまう子が気を付けるようになるかもしれません。互いが注意し合う機運を高めるための児童生徒による啓発活動も有効かもしれません。

来月からは、受験シーズンに突入します。高3、中3、小6のいる家庭は、気が気でないというのが正直なところでしょう。コロナの影響で、年度当初から最高学年ならではの活動が制限されてきた子供たちのためにも、学校での活動時間がこれ以上削られることはできるだけ避けたいものです。

家に帰ってからも、①うつらないよう自己防衛！ ②うつさないよう周りに配慮！ ③習慣化しよう3密回避！ の感染回避行動が徹底できるよう、管理職がリーダーシップを発揮し、地域や学校の実態に応じた工夫ある取組をお願いします。